様式第７号の２（第８条関係）

２０２５年　１１　月　１７　日

（あて先）三鷹市議会議長

議員行政視察に係る結果報告書

会派名　れいわ・市民自治の会　　代表者名　野村羊子

１　視察年月日	２０２５年１１月１１日（火）午後２時 ～ 午後３時３０分
２　視察者氏名	野村羊子　　計　１人
３　視察先	東京都　国分寺市
４　視察項目	(1) 国分寺市役所新庁舎の環境配慮、防災対策、バリアフリー等について
５　視察結果等	国分寺市新庁舎は2025年１月６日に開庁。都有地購入と建設費等を含めた総事業費は約140億円。防災、バリアフリー、環境配慮、市民が気軽に来られる庁舎、職員が働きやすい環境等を考慮した設計整備になっている。 広い中央通路が庁舎を貫いているので、広々とした空間に見える。椅子やカウンター等、随所に木材を活用しており温かみがある。バリアフリーにも配慮されている。点字ブロックは1階から2階の障害福祉課まで続いている。多様な要求にこたえられるよう様々な機能のトイレを各階に分散配置している。3人～6人が一度に使える授乳室や、気持ちを落ちつかせ、パニックを未然に防ぐためのカームダウン・クールダウンの部屋も用意するなど、様々な場面を想定した細かな配慮がされていた。 中央通路の両側に広がる執務室は、課単位でのグループフリーアドレス制となっている。オンライン会議が可能な個室や、集中したい時のための背が高い椅子に囲われた席、複数で会議が可能なコーナーなどバリエーションを持たせてある。課長の席だけが固定であり、かつ課長クラスは内線転送のスマホで、どこにいても連絡がつくとのこと。 窓際のカウンター席のそばに、電子レンジ等が置いてあるのが印象的

三鷹市議会
7.11.18
第 851 号
受付

	だった。食堂はないが、1階にコンビニがある。コンビニの前のイスとテーブルや、3階の食事等ができるリフレッシュスペースは、一般市民も常に使用できるため、高校生が仲間で勉強している姿が目についた。 災害対策本部室は、常に災害時対応用にしつらえてあり、日常使用はしていないという。吹田市では、同様に災害対策本部室を設置しているが、必要な時は会議室としても活用し、災害対策室のしつらえに戻すことで、職員にも災害時対応を意識させている。そのような形で日常的にもっと活用される方が、よいのではないかと思う。 5階の議会エリアには、木漏れ日テラスがあり、市民が自由に出入りできる。ついでに議会傍聴をする市民もいるそうで、開放的な印象があって良いと思う。 議場そのものは、市長部局と議員の間のスペースが広く、コンサートができそうな感じだった。傍聴席が50席しかなくあふれる時があるとのことだったので、傍聴席をもう一列前に増設して、議員席も前に出し、市長部局との距離を短くしてもよかったように思うが、図面だけではこの実感は持ちにくいだろうと思う。 環境配慮は南西側のルーバー、ソーラーパネルと蓄電池、1階エントランスでのタイルの隙間からの風の吹き上げによる空調など、様々な工夫によってZEB Readyの認証を取得している。エネルギー消費を抑え、実質再生可能エネルギー100%の電力とカーボンオフセット都市ガスの導入により、温室効果ガス排出量実質ゼロを達成しているという。 最近のコンセプトを体現した新庁舎として視察が多く、わずか10か月で26回の視察というのもよくわかる。基本的な設計思想と、具体的な細かい配慮がうまく組み合わさった事例だと思う。３年後、５年後に再訪し、使い勝手を聞いてみたいと思った。

